

近現代史特講②

○ナチスドイツ成立への道

1919年ドイツ労働者党結成→1920年、ナチス(国家社会主義ドイツ労働者党)結成
⇒アドルフ・ヒトラーの登場(→ミュンヘン一揆で逮捕、獄中で『わが闘争』を著す)

ヒンデンブルク大統領の時、世界恐慌→失業率が20%に

⇒ヒトラー内閣の誕生(1933)⇔ドイツ社会民主党や共産党が依然として強い勢力

→国会議事堂放火事件(1933)を、共産党員の仕業として、共産党を非合法に

⇒全権委任法により、政府に立法権→他の政党を非合法化して独裁

→国際連盟も脱退(1933)

→1934年、ヒンデンブルク大統領の死去

→ヒトラーが総統に⇒失業者救済政策により、失業者がゼロに

→ゲシュタポ(ヒムラーが指揮)で、社会主義者やユダヤ人を逮捕

→強制収容所に移送

→ニュルンベルク法(1935):ドイツ人とユダヤ人の通婚を禁止

⇔ソ連のスターリン

第七回コミンテルン大会で、反ファシズムを提唱

→共産党も社会民主主義もブルジョワもまとまるべき=人民戦線内閣の誕生(仏・西)

○ナチスドイツの勢力拡張の本格化

・1934年、ソ連が国際連盟に加盟(ドイツ進出を恐れたフランスの斡旋)

・1934年までは、ドイツ・ポーランド相互不可侵条約によりピウスツキと微妙な友好

⇒1935年、ザール編入

→再軍備宣言(1935):徴兵制の復活と軍隊制限(10万以下)の無視

⇔ストレーザ戦線(英・仏・伊)

↓ →1935年エチオピア侵略→翌年併合

仏ソ相互援助条約(1935)、チェコスロヴァキアとも同様の条約

英独海軍協定(←ドイツを体制に取り込もうと試みる、また仏ソの連携が嫌だった)

=宥和政策

【ドイツのラインラント進駐(1936)

【イタリアのエチオピア侵略に対する国際的非難

⇒この二国を結びつけたのが、スペイン内乱(1936~)

○同盟国の結成

スペイン内乱(1936~)

- 1936年、スペインで人民戦線内閣結成←労働者・貧農の支持(ソ連や義勇軍も)
 - ⇨モロッコで、フランコ将軍が反乱(←ドイツ・イタリア・ポルトガルが支援)
 - ⇒ベルリン-ローマ枢軸(1936)
- ⇨イギリス・フランスは不干渉政策(戦火の拡大やヒトラーの刺激を恐れて)

- ・日独防共協定(1936)←コミンテルンに対抗するため
 - 日独伊三国防共協定(1937)⇒日独伊三国軍事同盟(1940)

○大戦直前の情勢

- ・1938年、ドイツがオーストリアを併合
 - 同年、チェコスロヴァキアのズデーテン地方を要求⇨英仏が反発
 - ⇒ミュンヘン会談(1938):ヒトラー、ネヴィル・チェンバレン、ダラディエ、ムッソリーニ
 - 英仏の宥和政策により、ヒトラーの要求は認められる
 - ・チェコスロヴァキアを解体(1939)→ベーメン・メーレンを併合、スロヴァキアを保護国化
 - ・リトアニア、ポーランドへの脅迫
 - ポーランド回廊、ダンチヒを要求するも、ポーランドが拒否
 - ・独ソ不可侵条約(1939、8/23)→ポーランドをドイツとソ連で分割する約束
- ⇒1939年9/1 午前4:45 100万の軍隊と2000機の飛行機がポーランド侵攻
=第二次世界大戦の開始

○第二次世界大戦

- 1939年9/1 ドイツがポーランドへ侵攻→ソ連もポーランドへ(→1940年、バルト三国を併合)
↓
→フィンランドへ侵略(→国連から除外される)
- 電撃戦(デンマーク、ノルウェー、オランダ、ベルギーの降伏)
→1940年フランスも降伏⇨自由フランス政府(ド=ゴール中心)=レジスタンス
→ヴィシー政府の成立(首班:ペタン)
- イギリスに空爆するも、降伏せず←さらに、アメリカがイギリスを支援(武器貸与法)
→チャーチルが首相に(労働党のアトリーも入閣)
- ⇒ヒトラーはイギリス上陸をあきらめ、視野を東方(ソ連)に

- ・この時期、イタリアはバルカン半島へ…→苦戦→ドイツに援助を求める
 - 1941年、バルカン制圧(→ユーゴは解体→クロアチアに親ナチス国家)
 - ⇨ティトーのパルチザン部隊によるゲリラ戦

○独ソ戦の開始

1941年6/22、ヒトラーは電撃的にソ連に侵攻

→開始一ヶ月で30%の軍事力がドイツにより破壊

⇨例年より早く、10月に降雪→ドイツは補給がままならず、ソ連が形勢逆転

→英ソ相互援助条約

→英ソ軍事同盟(1942)

○日本の動向

関東軍は、1931年満州事変を通じて、満州国を建国(1932)

→盧溝橋事件により、日中戦争勃発(1937)→長期化

※詳しくは次回

⇨アメリカは、日米通商航海条約を破棄(1939)(←経済制裁をちらつかせる)

・日本は、1940年9月、仏印進駐

→英米による援蒋ルートを遮断するため、また、東南アジアの資源を確保するため

←日ソ中立条約締結(1941)(←安心して東南アジアに進駐するため)

→1941年7月、ヴェトナムへ=第二次仏印進駐

⇨東南アジアに植民地や利権を持つ英米が反発

↳→対日石油禁輸(1941)←アメリカによる

↳→日英通商航海条約の破棄←イギリスによる 「ABCDライン」

⇒アメリカは、「ハル・ノート」を東条英機首相につきつける(1941年10月)

←インドシナ・中国からの撤兵、三国同盟の死文化、満州事変以前に戻す

⇒日本は、真珠湾攻撃(1941年12/8)、同時に、マレー半島上陸作戦

→ドイツ、イタリアもアメリカに宣戦

↓
ミッドウェー海戦(1942年6月)→日本海軍の敗北(4隻の空母が撃沈)

→8月、ガダルカナル島を米軍に奪われる(←壮絶な戦闘)

⇒サイパン島の陥落(1944)→日本本土に空爆(B29による)

○戦争の転換

・独ソ戦(1941~)⇒ドイツはモスクワやレニングラードを占領できず

→スターリングラードの戦い(1943年2月)で、ドイツ軍が壊滅

・米英連合軍、シチリア島に上陸→ムッソリーニが支持を失い失脚

→パドリオが内閣を組織し、連合国に無条件降伏

↓
ノルマンディー上陸作戦(1944年6月)←アイゼンハワー総司令官

→ドイツの敗北がかさむ…

○ 連合側との会談

① 大西洋上会談(1941) ローズヴェルト(米) チャーチル(英)

→ 大西洋憲章の採択

② 連合共同宣言(1941年2月) 米英ソ中など26ヶ国

→ 大西洋憲章の原則を踏まえて、最後まで戦争を続けることを確認

③ カサブランカ会談(1943) ← シチリア上陸作戦にゴーサイン

④ カイロ会談(1943年11月) 米 英 蒋介石(中)

→ カイロ宣言(対日作戦、日本の太平洋の諸島の放棄、朝鮮の独立、日本の分割統治)

⑤ テヘラン会談(1943年11月) 米 英 スターリン(ソ)

→ スターリンがロシア以外の戦線の構築を要求 → ノルマンディー上陸作戦へ

⑥ ヤルタ会談(1945年2月) 米 英 ソ ← 黒海北岸で

→ ドイツの戦後処理、ソ連の対日参戦

⇒ 4/30 にヒトラー自殺 → 5/8 にドイツは無条件降伏

⑦ ポツダム会談(1945年7月) トルーマン(米) アトリー(英) ソ連

↓ → ポツダム宣言(日本の無条件降伏を要求)

↓ → ポツダム協定(ドイツを米英仏ソで四分割する)

1945年 8/6 広島へ、8/9 長崎へ原子爆弾の投下

→ 8/8 ソ連の対日参戦

→ 8/15 無条件降伏の意思

→ 9/2 降伏文書に調印